

1. パイプライン停止状況の説明

現在長雨及び実証実験によりパイプラインが停止している地区があります。具体的のは以下の通りです。

9月16日現在

町名	状況		復旧予定	備考
浜風町	△	停止	一部運転	雨水侵入
新浜町	△	停止	一部運転	実証実験
高浜町	△	停止	一部運転	ごみ堆積
若葉町	△	停止	一部運転	実証実験
緑町	△	停止	一部運転	実証実験
潮見町	△	停止	一部運転	雨水侵入
陽光町	○	運転中	—	—
海洋町	○	運転中	—	—
南浜町	○	運転中	—	—
環境処理センター	—	—	—	—

パイプラインの運転停止投入口

- ・ 浜風町(投入口:03021・03031・03032・03033・03041・03051・03052・03053・03054・03061)
- ・ 新浜町(投入口:03149・03159)
- ・ 若葉町(投入口:09019・09029)
- ・ 高浜町(投入口:05089)
- ・ 緑町 (投入口:11061・11062・11071・11081・11091・11101)
- ・ 潮見町(投入口:11063・11111)

パイプライン障害発生連絡

9月16日

項目	内容
発生日・時刻	2026年6月27日

	・パイプライン施設の代替収集方法についてモニター実施をしているため該当地域について運転を一時停止しております。 ・管内にごみ堆積により閉塞。詳細な内容については、調査依頼中。
原因	調査（済・<u>継続中</u>）・<u>原因不明</u> ・具体的な内容(水位低下の後、大規模な雨水流入箇所がないか調査予定) ・写真：☐ 別添 ☒ 無

2. 実証実験(モニター)の実施状況報告

8月15日から、高層住宅において、ごみカートを使用したパイプライン代替収集の実証実験(モニター)がスタートしました。

実際に運用を開始したことで、事前の検討だけでは分からなかった良い点や問題点が確認されました。実証実験の目的は、単に新しい収集方法を体験するだけではなく、実際の生活の中で問題を発見し、改善したうえで、将来のより良い収集方法につなげることにありと考えます。

そこで、現時点で確認された問題点と、その改善方法について以下のとおり提案します。

・戸建住宅・タウンハウス 金属ボックス設置

山口コメント

実際に金属ボックスを確認して、次のように感じました。

【良かった点】

- 見た目がきれいで、清潔感があります。
- ふたの取っ手は軽く、力をあまり必要としません。高齢者を含め、誰でも比較的簡単に開けて、ごみを入れることができます。
- ふたを閉めているときは、ごみの臭いはほとんど外に漏れていません。
- ごみがボックスの中に収まるため、カラスによる被害を防ぐ効果も期待できます。



【気になった点】

- 晴れた日は金属部分に太陽の光が反射し、かなりまぶしく感じます。アンケートでも、車の運転時に光が反射して見づらいという意見がありました。表面を光沢の少ないものにするなど、改善を検討する必要があると思います。
- 夏場は金属部分がかなり熱くなる可能性があります。利用者が触れる部分については、やけどをしないための対策が必要です。
- ボックスの中に虫が発生したとの意見もあり、定期的な清掃が必要です。しかし、近くに水道がないため、「誰が、どのような方法で清掃するのか」をあらかじめ決めておく必要があります。
- 清掃しやすくするため、ボックスの底に水を流すための排水口が必要かどうか検討した方がよいと思います。また、汚れや臭いを少なくするため、家庭で生ごみの水分を十分に切ってから出していただくことも重要です。



- ・ 収集作業では、ごみ袋を一袋ずつ人の手で取り出す必要があります。これまでの収集方法と比べて、収集作業にどの程度の時間と手間がかかるのかを、今回の実証実験で確認する必要があります。

総合コメント

今回の金属ボックス方式は、「開けやすい」「臭いが漏れにくい」「カラス被害を防げる」という良い点が確認できました。一方で、「光の反射」「夏場の熱さ」「虫の発生」「清掃方法」「収集作業の手間」など、実際に使って初めて分かった課題もあります。

実証実験の目的は、このような問題を見つけることにもあります。今後は、良い点を生かしながら、今回見つかった問題を一つずつ改善し、より使いやすい方法にしていくことが大切だと考えます。

利用者アンケート(途中経過 48%回収 緑西地区自治会)

- ・ 夜間の車運転時に、金属ボックスにライトが反射して運転しづらい場面があった。
- ・ 虫眼鏡のような原理で、金属ボックスにより反射した光で火事にならないか怖かった。
- ・ 個人情報が入ったもののごみ出しに気をつけるようになった。
- ・ 住民以外の方がごみを出しに来ないか心配。
- ・ ステンレス部分が熱く、やけどしそう。
- ・ 昨今は金属盗難事件も多く、金属ボックスが盗難されないか不安。
- ・ 使いやすさ 開閉が楽だった。
- ・ 距離・動線 設置位置の検討もしてほしかった。
- ・ 生活への影響 カラス被害がなくてよい。
- ・ 蓋を開けたとき以外は匂いはほとんどしなかった。
- ・ 内部に虫が湧いていた。
- ・ 周囲に水道がないため、清掃をどうするか不安がある。
- ・ 景観 色は光沢のない方がよいのではないかな。



戸建住宅(第2弾)

ごみカート内蔵金属ごみボックス

山口コメント

実際に第2弾の「ごみカート内蔵金属ごみボックス」を確認して、次のように感じました。

【良かった点】

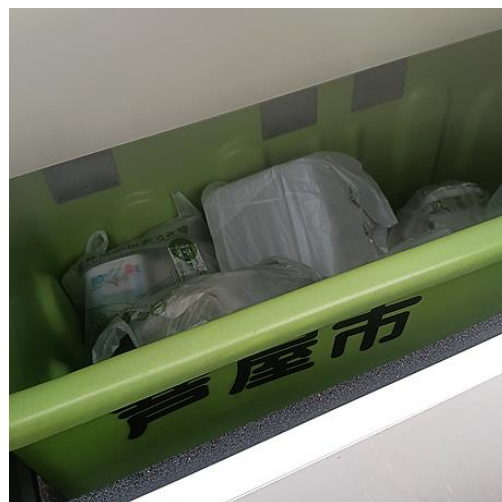
- ・ 全体として見た目は良好です。
- ・ 金属ボックスはクリーム色に塗装されています。周囲の景観と比べると多少目立ちますが、第1弾のステンレス製ボックスと比べると光の反射が少なく、落ち着いた印象です。



- ・ 表面がクリーム色に塗装されているため、第 1 弾のステンレス製ボックスと比べ、夏場の表面温度の上昇も抑えられると考えられます。実際の温度については、今後確認する必要があります。
- ・ ごみがボックスの中に収納されるため、カラスによる被害を防ぐ効果が期待できます。
- ・ ごみの投入口は 2 か所あり、扉を軽く押すだけで簡単に開閉できます。また、投入口の高さも適切で、ごみ袋を入れやすい構造になっています。
- ・ ふたのないごみカートがボックスの内部に設置されています。収集時にはボックスの鍵を開け、カートごと外へ移動できるため、道路から少し離れた場所にも設置できることは大きな利点です。
- ・ また、ごみ袋を一袋ずつ取り出すのではなく、カートごと収集車のところまで移動できるため、第 1 弾と比べて収集作業の負担を軽減できると考えます。
- ・ 現時点では、ボックス周辺で気になる臭いは感じませんでした。
- ・ カートには排水口が設けられているため、内部を水洗いしやすい構造になっています。

【今後確認・検討したい点】

- ・ クリーム色の塗装によって表面温度がどの程度抑えられるのか、特に夏の晴天時に確認する必要があります。
- ・ 長期間使用した場合の臭いや虫の発生についても、引き続き確認する必要があります。
- ・ 清掃する場合には、内部のカートをボックスの外へ出す必要があります。そのため、収集業者だけでなく、日常の管理や清掃を行う自治会・管理組合も予備の鍵を保管するなど、鍵の管理方法をあらかじめ決めておく必要があります。
- ・ カートを外へ出して水洗いする場合、洗浄した水をどこへ流すのかについても確認しておく必要があります。
- ・ 今後は、収集作業に必要な時間や作業負担についても実際に確認し、第 1 弾との違いを比較することが重要です。



総合コメント

第 2 弾の「ごみカート内蔵金属ごみボックス」は、第 1 弾で問題となった光の反射、夏場の表面温度、収集作業の手間などについて、改善が期待できる構造になっていると感じました。特に、「住民は簡単にごみを投入でき、収集する側はカートごと移動できる」という点は、この方式の大きな特徴です。

一方で、実証実験は始まったばかりです。今後、臭い・虫・清掃方法・鍵の管理・夏場の表面温度・収集作業の負担などを継続して確認する必要があります。

第 1 弾と第 2 弾について、単に「どちらが良いか」を判断するのではなく、利用者の使いやすさ、管理する側の負担、収集する側の作業性、景観・衛生面のそれぞれから比較し、今後のより良い収集方法につなげていくことが重要だと考えます。

今後、第 3 弾も含めて、①利用者、②管理者、③収集作業員、④周辺環境という同じ物差しで各方式を評価すると、最終的な実証実験のまとめが非常に分かりやすくなると考えます。

3. 実証実験(モニター)の実施状況報告

・ 高層住宅 ごみカート(第1弾)

山口コメント

1. 良かった点

実証開始から約 2 週間の状況では、全体として大きな問題は発生していません。

- ・ カート周辺へのごみの散乱や、カートからごみがあふれる状況は確認されていません。
- ・ ごみ量が多い月曜日には 14 台すべてが満杯になりましたが、収容量の範囲内に収まりました。
- ・ 生ごみの著しい液だれや、カラスによる被害も確認されていません。
- ・ 14 台分のごみを収集車へ投入する作業は約 10 分で、収集時のごみの散乱もありませんでした。
- ・ 利用者からは「24 時間いつでもごみを出せるので便利」、収集作業員からも「手間がかからず便利」との意見がありました。



2. 今後の検討課題

① ルーバーとカートの干渉

ルーバーがカートのポールや蓋に当たり、正常に開閉できない場合があります。その際、重いカートを手で動かす必要があり、高齢者を含む利用者にとって負担となります。

実際には、ルーバーを上げずに直接カートへごみを入れている人がほとんどです。

そのため、まずルーバーを設置する目的を確認し、必要性が低ければ撤去も含めて検討します。必要な場合には、カートと干渉しない構造への改善が必要です。



② カートの蓋同士の干渉

カート同士の間隔が狭いため、蓋が重なって開けにくい場合があります。

蓋を十分に開けられる間隔を確認したうえで、カートが動かないよう、床面への位置表示やストッパーの設置を検討する必要があります。

ただし、間隔を広げると設置できるカート数が減る可能性があります。そのため、「使いやすさ」「必要台数」「設置スペース」「収容量」を合わせて検討する必要があります。



3. 総合コメント

実証開始から約 2 週間の途中経過では、ごみの散乱、あふれ、著しい液だれ、カラス被害などの大きな問題は確認されておらず、ごみカート方式そのものは比較的順調に運用されていると考えます。

一方、ルーバーやカートの配置については、利用者が重いカートを動かさなければならないなど、改善すべき点があります。今後も実証実験を継続し、利用者の使いやすさ、必要なカート数、衛生面、周辺環境への影響、収集作業の負担を確認したうえで、総合的に評価することが重要だと考えます。

この構成なら、第 1 弾を「問題があった」と評価するのではなく、カート方式そのものの評価と、付帯設備であるルーバー・配置の問題を分けて説明できる点が重要です。これは今後、第 2 弾などと比較する際にも有効です。



利用者アンケート(途中経過 39%回収 アステム A・B 棟団地管理組合法人)

- ・ 車両が頻繁に通行するため、事故にならないか怖い。(目かくしのシートも高いため)
- ・ 住民以外の方がごみを出しに来ないか心配。
- ・ 身長の高い方には高さが高い。
- ・ ごみがカートの奥まで入れるのが難しく、手前に偏ってしまっている。
- ・ ごみをカートの奥に押し込む棒あれば便利に感じた、
- ・ 空のカートを探すのが面倒。空・満杯の表示する仕組みを考える必要あり。
- ・ 雨の日に、傘をさしていると片手が塞がっているのでカートの蓋を開けてごみを入れるのは大変。
- ・ 距離・動線日頃の移動経路上にないため不便に感じる。
- ・ すぐにごみを出せず、用事のついでにごみを出すことになり、家の中で匂いがして困った。
- ・ 不燃物場所が移動したが、A 棟の玄関に近く、毎日視線に入るため不満。
- ・ 匂い・衛生面蓋が適切に閉まっていないことがあり、匂いがした。
- ・ 周囲の目かくし(シート)の材質・色・高さは改善が必要。
- ・ ごみカートはもう少し落ち着いた色がよい。

高層住宅 金網ごみカート(第2弾)

1. 良かった点

第 1 弾と同様に、現時点では全体として大きな問題は発生していません。

- ・ カート周辺へのごみの散乱や、ごみが周囲にあふれる状況は、全体としては確認されていません。
- ・ 生ごみの著しい液だれや、カラスによる被害も確認されていません。
- ・ 24 時間いつでもごみを出すことができるため、利用者にとって利便性の高い方式となっています。
- ・ 収集作業についても、カートを利用することで比較的効率よく収集できています。



2. 今後の検討課題

① 景観との調和

- 金網で囲ったごみステーションは、柱や前面の網ドアなどが目立ち、住宅周辺の景観との調和という点では改善が必要だと感じます。
- 将来、長期間使用する設備となる可能性も考え、単にごみを囲うだけではなく、**住宅地の景観に配慮した外観や構造**を検討する必要があります。

② 網ドアの開閉方法

- 前面の網ドアは、網を支えるリング部分の動きが悪く、開けにくく、閉めにくい状態です。また、利用後にきちんと閉めにくいという問題もあります。
- 毎日のごみ出しに使用する設備ですので、高齢者を含め、誰でも軽い力で簡単かつ確実に開閉できる構造への改善が必要です。



③ 出入口の位置とカートの利用の偏り

- 現在、出入口が中央の1か所だけのため、利用者は出入口に近いカートにごみを入れる傾向があります。その結果、一部のカートだけが早く満杯となり、ごみがあふれて蓋が閉まらない状態が発生しています。
- これはカート全体の収容量が不足しているというよりも、出入口の位置によって利用するカートが偏っていることが原因の一つと考えられます。
- 改善方法として、両端にも出入口を設けるなど、すべてのカートを均等に利用しやすい配置を検討する必要があります。

3. 総合コメント

- 第2弾の金網ごみカート方式についても、現時点では、ごみの散乱、著しい液だれ、カラス被害などの大きな問題はなく、ごみを収集・保管する基本的な機能は果たしていると考えます。
- 一方、今回の実証実験によって、景観との調和、網ドアの使いやすさ、出入口の位置によるごみカート利用の偏りという新たな課題が確認されました。
- 特に、一部のカートだけが満杯になる問題は重要です。必要なカート台数だけでなく、「利用者がどこから入り、どのカートにごみを入れるのか」という人の動きまで考えて設備を設計する必要があることが今回の実証実験から分かりました。
- 今後は、利用者の使いやすさ、景観、カートの利用状況、衛生面、収集作業の負担などを引き続き確認し、より使いやすいごみステーションへ改善していくことが重要だと考えます。

中層住宅 ごみカート(第1弾)
からすいけいけ



3. 生ごみ減量ワークショップ～みんなの知恵を集めよう～

1. なぜ今、生ごみ減量なのか

現在、大阪府では焼却施設の老朽化や更新工事などの影響により、一部の焼却施設で処理能力が不足し、ごみ処理に大きな影響が出ています。

このような状況は、大阪府だけの問題ではありません。全国的にごみ処理施設の老朽化が進んでおり、今後は「ごみを減らすこと」がますます重要になります。

生ゴミを絞るだけで税金の節約にも

ごみに中でも「生ごみ」は大きなウェイトを占めています。そこで「生ごみ(ごみ汁)」を減らすために、滝沢さん([ゴミ清掃員](#)でお笑い芸人)が紹介したのが、生ゴミの水分を絞ってから捨てることです。多くの人が実践することで、大きな効果が期待できるといいます。「ちなみに皆が皆絞ってくれば、墨田区では可燃ゴミを2割減らすことができる、多摩地区では皆が両手で絞ってくると3億円使わなくていい税金を節約できるそうです」

また、生ごみは燃やすごみの約3～4割を占めており、水分含有量は生ごみの重量の約80%以上が水分です。水分が多いため焼却時に多くのエネルギーを必要とします。

生ごみを減らすことは、

- ・ ごみ処理費用の削減
- ・ CO₂排出量の削減
- ・ 焼却施設の負担軽減
- ・ 持続可能な地域づくり

につながります。

2. 今回の目的

今回は、「正しい答え」を見つける場ではありません。

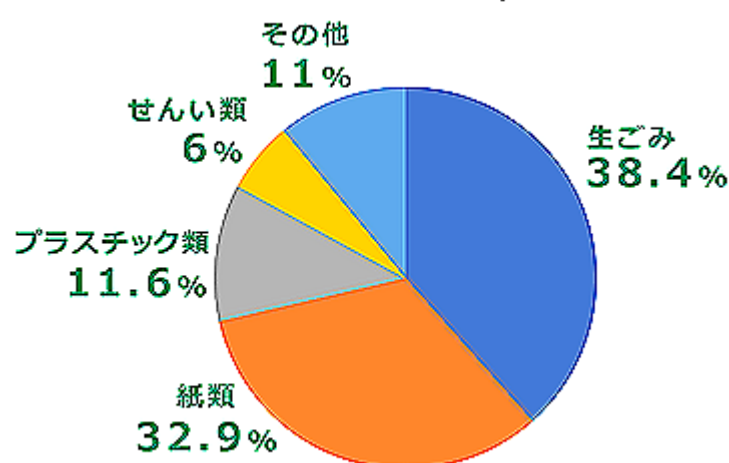
皆さんが日頃行っている工夫やアイデアを持ち寄り、お互いに学び合うことを目的として「みんなの知恵マップ」を作成します。

「こんな方法があるのか」

「私にもできそうだ」

そんな新しい気づきを得ることを目指します。

京都市の燃やすごみの割合 (2022年)



京都市「令和4年度家庭から出る燃やすごみの内訳」より作成

3. ワークショップの進め方

STEP1 カードを書く(10分)。

2人1組になり、配布されたカードに

① 現在実践していること

例

- 水切りをしている
- 食べ切るようにしている
- 買いすぎない 等

を記入して模造紙にはります。



STEP2 今後やってみたいことを二人でアイデアをだして模造紙に貼ります(10分)。

例

- コンポストに挑戦
- 生ごみ処理機を使う
- 冷凍保存を工夫する

STEP3 KJ法で整理(10分)

ファシリテーターが模造紙へ貼りながら、似た内容ごとに整理します。

最後に

「みんなの知恵マップ」

を完成させます。

4. 今回期待する成果

今日の成果は、

「生ごみを減らす方法を一つに決めること」

ではありません。

地域の皆さんの知恵を集め、

「こんな工夫がある」

ということを共有することです。

5. 次回予告

今回集まったアイデアを基に、次回は「私たちが明日からできること」をテーマに、具体的な行動計画を皆さんで考えたいと思います。

私からの提案

「地域の課題は、一人で解決するものではありません。皆さんの経験や工夫を持ち寄ること、新しい解決策が生まれます。今日のワークショップが、その第一歩となれば幸いです。」

資料:ごみ処理費 2 兆 4,489 億円 生ごみを 9 年間 2200 回乾かした市民のデータが示すこと

井出留美

水分が 80%を占める生ごみと他のごみが一緒くたに混ぜられて捨てられている様子(筆者撮影)

私たちが 1 年間にごみ処理へ費やす税金は **2 兆 4,489 億円**。国民 1 人あたりに換算すると 1 万 9,700 円。前年 2023 年度は 2 兆 2,912 億円だったので、一年で 1,577 億円増えたことになる。

税金で燃やされているごみのうち、約 4 割を厨芥類(生ごみ)が占める。生ごみは水分を多く含むので燃えにくく、燃やすのに多くのエネルギーとコストがかかる。

筆者は、生ごみを家庭用生ごみ処理機で乾燥させている。電気代は年間およそ 2,400 円。ハチドリ電力という再生可能エネルギーの会社と契約しているので、石油系のエネルギーは使っていない(2)。

2017 年 6 月から、家庭用生ごみ処理機で生ごみを乾燥させ、乾燥前後の重量を記録してきた。2026 年 8 月、計測回数は 2,200 回に達した。計測期間は約 9 年 2 ヶ月。一般的に生ごみの重さのおよそ 80%は水分である(3)。直近 100 回の減少率は 77.7%で、機種変更した 600 回以降では 2 番目に高い水準となった。

生ごみを乾かすとごみはどれだけ減るのだろうか。

生ごみ乾燥のきっかけとこれまでの経緯

筆者が生ごみ乾燥を始めたのは、埼玉県川口市クリーン推進員向けの講演を依頼されたことがきっかけだ。食品ロスのことは調べていたが、ごみについては詳しくなかった。そこで、自分が出したごみがどれくらいの量なのか、どうすれば減るのかを実際に確認しようと思い、家庭用生ごみ処理機を助成金で半額購入した。約 2 万円のものが 1 万円ぐらだった。大きさは A4 サイズぐらいいで、キッチンと洗面所の間に置いても邪魔にならないくらい。約 600 回計測した時点で高機能のものに機種変更した。100 回ごとの結果は、これまでも記事で報告してきた。

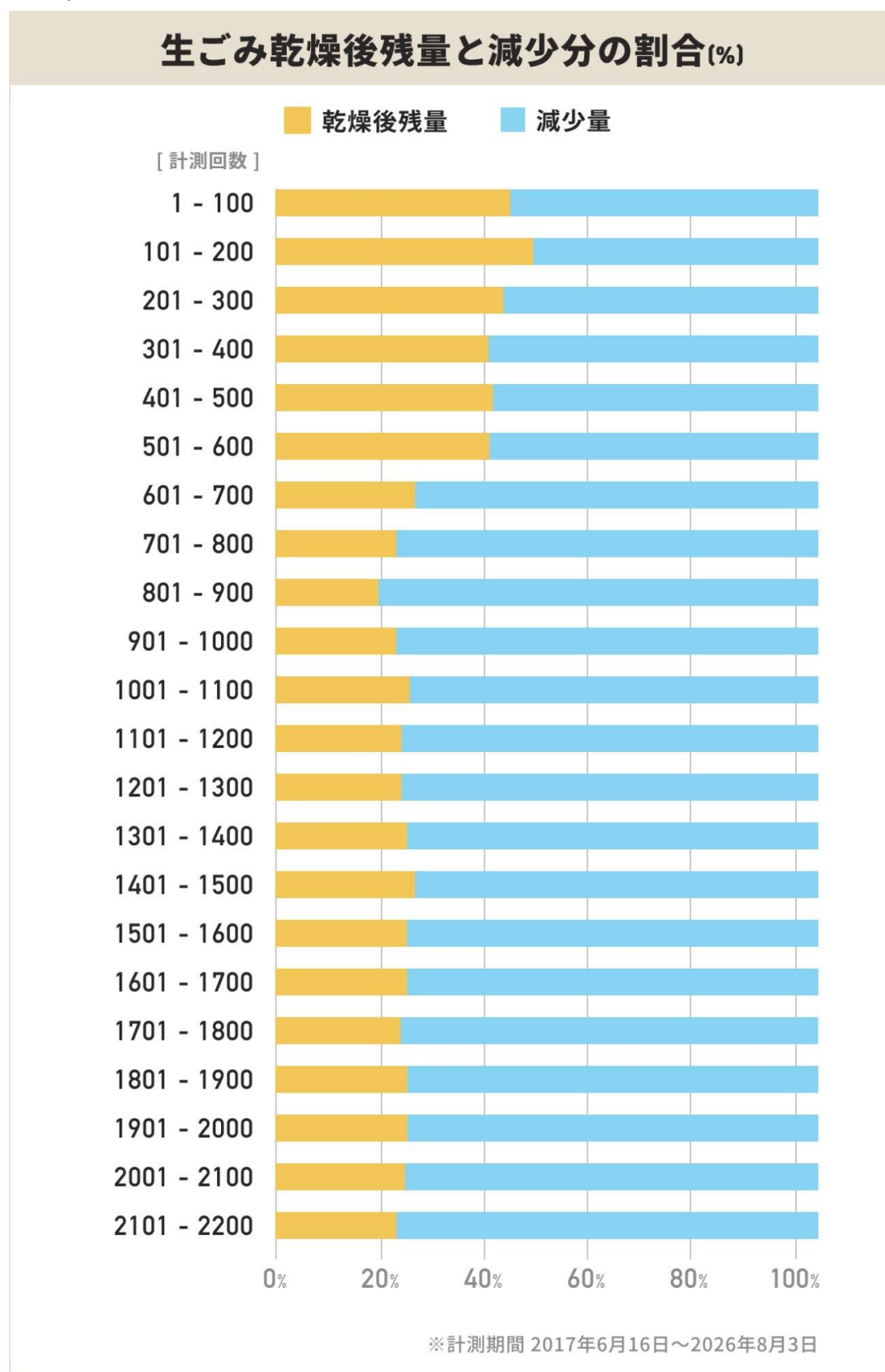


家庭用生ごみ処理機の例。大きさは A4 サイズぐらい(筆者撮影)

2200 回、9 年間のデータが示すもの

直近の 100 回では 77.7%の減少率だった。もとの生ごみの重さから 80%近くも減っている。2,200 回を通算すると、乾燥前は約 814kg だったものが、乾燥後は約 243kg ⇒630g になった。減少した重量は累積で 571kg⇒163g、通算の減少率は 70.1%で

ある。600 回で高機能の機種に変えて以降の 1,600 回に限れば、減少率は 76.6% になる。



棒グラフの水色の部分が減った重量を示す。

一年間で1,577 億円増えたごみ処理の税金

環境省の令和 6 年度の調査によれば、市区町村などがごみ処理に要した経費(ごみ処理事業経費)は 2 兆 4,489 億円だった。前年度は 2 兆 2,912 億円だったので、1 年で 1,577 億円、6.9%増えたことになる。このうち建設改良費は 4,402 億円から 5,561 億円へと 26.3%増えた。

高度経済成長期に建設されたごみ焼却施設は全国で老朽化の時期を迎えている。とりわけ、ごみ量の多い東京都 23 区では、清掃工場建て替え費用が大きいのしかかっている。一世帯で使う家庭用生ごみ処理機の電気代は、我が家の場合、年間 2,400 円程度だ。世帯人数やごみ発生量によって料金は異なるものの、各家庭が生ごみを減らすことで、ごみ処理にかかる税金を、もっと減らせるのではないだろうか。筆者はマンションに住んでいるので乾燥させているが、必ずしも生ごみ処理機を使う必要はない。庭や畑のコンポストに入れるだけでも、全体のごみ量はぐんと減る。

乾かした生ごみはどこへ

乾かした生ごみはどこへ行くのだろうか。

世帯ごとにコンポストに入れることもできるが、自治体が受け入れている例もある。神奈川県川崎市では、家庭から出る生ごみが焼却ごみ量の 2 割程度を占めることから、生ごみの堆肥化を推進している。家庭で使い切れない生ごみ堆肥は、川崎市内の花壇や農園で受け入れている。電動生ごみ処理機で乾燥させた乾燥生ごみも受け入れの対象だ。

川崎市は、生ごみリサイクル活動をおこなう市民団体に助成金も交付している。

生ごみにする前に、筆者はベジブロス(野菜だし)を作っている。たとえば玉ねぎの皮、枝豆のさやなど、食べられない部分については密閉袋に入れ、冷蔵庫のチルド室に保管しておく。一週間ほどすると袋がいっぱいになるので、深鍋に移し、1 リットル弱の水を入れて、30 分から 1 時間ほど煮出すと野菜だしができる。カレーやリゾットなどに使うことができる。先日は、シンガポールライス(チキンライス)を炊き込む時の出汁として使ったところ、香りもよく、美味しいものができた。

ベジブロスを作ったあとの野菜かすは、乾かしてから、コンポストに入れる、もしくはそのまま捨てる。

玉ねぎの皮や野菜の硬い部分からベジブロスを作る(筆者撮影)

日本と世界のごみ事情

日本では、高度経済成長期にごみが増加し、焼却施設が多く建設された。2008 年の OECD のデータによると、世界の焼却炉の半分以上が日本にあるとされる。衛生上、仕方がないという意見や、国土面積が狭いからという声を聞く。2024 年度(令和 6 年度)末の時点で、日本のごみ焼却施設は 991 施設あり、ごみ全体のうち直接焼却される割合は 80.8%にのぼる。

だが、日本の国土面積の約 4 分の 1 しかない韓国は、生ごみリサイクル率が 98%に達している。最初から高かったわけではない。1996 年には、生ごみリサイクル率が 2.6%しかなかった。韓国政府による生ごみリサイクル義務化や生ごみ埋め立て禁止などが功を奏した。従量課金制、すなわち、ごみを多く出せば出すほど税金を多く負担しなければならない仕組みが、飲食店や市民のモチベーションを上げた。



韓国の生ごみポスト(筆者撮影)

ニューヨーク市では、2023年6月8日に市議会が「ゼロウェイスト法(The Zero Waste Act)」を可決し、2024年10月までに市内の5つの行政区すべてで、生ごみなど有機廃棄物の分別収集が義務化された。

2025年4月1日には罰金の徴収が始まったが、その2週間後、当時のアダムズ市長が30戸以下の建物への罰金を一時停止した。その後、マムダニ市長のもとで2026年1月1日から全面的に再開されている。罰金の額は、8戸以下の建物で25ドルから、大型の建物では100ドルから300ドルである。

筆者も2022年から2025年まで4年連続でニューヨークの食品ロス会議に出席した際、滞在中、オレンジ色のスマートコンポストを実際に使ってみた。スマートフォンのアプリで扉を開閉でき、誰でも生ごみを投入することができる。

9年間続けてわかったこと

9年間続けてみてわかったのは、習慣化の大切さだ。無理ない形でやることが、長く続けられる秘訣だ。当初購入したシンプルな形の家庭用生ごみ処理機は、初心者にとって使いやすかった。

その後、バージョンアップした機種は、炊飯器のような形式で、蓋を開けてスイッチを押すだけで、さらに使いやすさが増した。生ごみの臭いに悩むことはない。ごみ出しの回数も格段に減る。乾かしてコンポストに入れば一石二鳥だ。何より、おすすめしたいポイントは、気持ちやすやすしくなることだ。